

平成24年度

施策評価マネジメントシート(平成23年度の実績評価)

記入年月日

平成 24 年 6 月 13 日

|       |     |                      |     |                   |       |       |
|-------|-----|----------------------|-----|-------------------|-------|-------|
| 施策No. | 政策名 | 豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり | 主管課 | 文化財課              | 主管課長名 | 市塚 邦彦 |
| 305   | 施策名 | 文化財の保存・活用            | 関係課 | 生涯学習課、商工観光課、学校教育課 |       |       |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的             | 施策の対象   | 対象指標名                     | 単位  | 区分 | 21年度   | 22年度   | 23年度   | 24年度   | 25年度   | 26年度   | 27年度   | 28年度   |
|----------------|---|---------------------------|-----|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                | ・市民<br>・桜川市内に存在する文化財  | ①桜川市人口                    | 見込値 | 人  |        |        |        | 45,122 | 44,571 | 44,020 | 43,469 | 42,920 |
| 実績値            |   |                           |     |    | 46,575 | 45,673 | 45,105 |        |        |        |        |        |
| ②指定文化財数        |   | 見込値                       | 件   |    |        |        | 124    | 124    | 124    | 125    | 125    | 125    |
|                |   | 実績値                       |     |    | 124    | 124    | 124    |        |        |        |        |        |
| ③登録文化財数        |   | 見込値                       | 件   |    |        |        | 102    | 102    | 102    | 102    | 102    | 102    |
|                |   | 実績値                       |     |    | 104    | 104    | 102    |        |        |        |        |        |
| 的              | 施策の意図   | 成果指標名                     | 単位  | 区分 | 21年度   | 22年度   | 23年度   | 24年度   | 25年度   | 26年度   | 27年度   | 28年度   |
|                | ・郷土に対する愛着心や誇りが醸成される   | ①地域の伝統行事や文化活動に親しんでいる市民の割合 | 目標値 | %  |        |        | 60.0   | 60.0   | 60.0   | 60.0   | 60.0   | 60.0   |
|                |   |                           | 実績値 |    |        | —      | 58.3   | 55.5   |        |        |        |        |
|                | ②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合   | 目標値                       | %   |    |        |        | 90.0   | 90.0   | 90.0   | 90.0   | 90.0   | 90.0   |
|                |   | 実績値                       |     |    | 90.3   | 90.2   | 89.9   |        |        |        |        |        |
|                |   | 目標値                       |     |    |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 実績値            |   |                           |     |    |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 成果指標設定の考え方     | ○郷土に対する愛着心や誇りが醸成されていくためには、①「地域の伝統行事や文化活動に親しんでいる」ことが重要であると考えた。<br>○文化財を後世に残すために、②「文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合」を把握すべきであると考えた。                              |                           |     |    |        |        |        |        |        |        |        |        |
| 成果指標の把握方法と算定式等 | ○対象の①人口は、毎年10月1日の常住人口。<br>○文化財保護法による登録文化財数<br>・指定文化財 = 国、県、市の3段階の規制。保存・修理に補助事業が可能。<br>・登録文化財 = 国の登録。規制が緩やかで、生活と文化財保護の両立を図る。<br>○成果指標①②については、市民アンケートで把握する。 |                           |     |    |        |        |        |        |        |        |        |        |

2. 施策の役割分担と状況変化

|      |  |   |
|------|--|---|
| 役割分担 | 1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)   | 2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)   |
|      | ○地域の歴史・文化に関心を持ち、次の世代に伝えていく。<br>○文化財の保護・保存・活用・継承に対し、積極的に行動する。<br>○市内に保有されている様々な文化財の情報を行政に提供する。  | ○文化財の調査・保護・保存・指定を行う。<br>○市民への意識啓発を行い、市民が郷土や歴史への認識を深め、次の世代に伝える担い手になれるよう支援する。<br>○案内板やパンフレットを充実させ、市内全体の文化財めぐりが可能となる態勢を整える。  |
| 状況変化 | 3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?   | 4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?   |
|      | ○重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けたことによる、観光客増が見込まれる。が、震災の風評被害の影響が懸念される。<br>○2011.3.11の震災で104棟のうち70%が被害を受けている。1割の自己負担で修理できるが、所有者の高齢化、維持管理費の問題などにより、それすら困難なケースがある。<br>○ひなまつりが盛況になっている。町並み案内ボランティアによる案内を実施している。<br>○文化財保護計画による計画的な保存をすることが求められている。(把握されていない文化財含む)<br>○少子高齢化に伴い、地域の伝統行事や文化活動に参加しなくなってきたことから、今後は減少していくと考えられる。 | ・市外からも寺社仏閣に対する問合せがある。<br>・震災の影響による、補助制度の取扱いについて、対象・非対象物件についての問い合わせがかなりある。<br>・特定の文化遺産以外の遺産についても消失の危機にあるものも見受けられる。文化財の一覧表がない。との意見がある。(住民WT)<br>・地区別の伝統行事、文化遺産を子どもたちに伝える機会を計画する必要がある。との意見がある。(住民WT) |

3. 基本事業の目的と指標

| 基本事業名    | 対象  | 意図                  | 成果指標                                   | 区分  | 22年度 | 23年度  | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|----------|-----|---------------------|--|-----|------|-------|------|------|------|------|------|
| ① 文化財の保存 | 文化財 | 文化財を守り、後世に残す        | 指定文化財の数                                | 実績値 | 124  | 124   |      |      |      |      |      |
|          |     |                     |  | 件   |      |       |      |      |      |      |      |
| ② 文化財の活用 | 市民  | 文化財の大切さを知ってもらい、活用する | ①文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合          | 実績値 | 90.2 | 89.9  |      |      |      |      |      |
|          |     |                     |  | %   |      |       |      |      |      |      |      |
|          |     |                     | ②活用事業への参加者数(町並み案内、説明会への参加者数、資料館への来館者数) | 実績値 | 200  | 2,000 |      |      |      |      |      |
|          |     |                     |  | 人   |      |       |      |      |      |      |      |

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

|        | 項目                 | 単位 | 22年度実績 | 23年度実績 | 24年度予算  |
|--------|--------------------|----|--------|--------|---------|
| 施策のコスト | ①本施策を構成する事務事業の数    | 件  | 20     |        | 27      |
|        | ②施策事業費(一般財源以外)     | 千円 | 30,134 |        | 240,803 |
|        | ③施策事業費(一般財源)       | 千円 | 36,301 |        | 167,523 |
|        | ④施策事業費の計(②+③)      | 千円 | 66,435 |        | 408,326 |
|        | ⑤施策人件費(事務事業の人件費合計) | 千円 | 9,208  |        | 25,214  |
|        | ⑥計(④+⑤)            | 千円 | 75,643 |        | 433,540 |

5. 施策に関連する主要事業等

| 関連する事務事業 | 区分   | 事務事業名               | 摘要                          |
|----------|------|---------------------|-----------------------------|
|          | 主要事業 |                     | 史跡真壁城跡保存整備事業                |
| 主要事業     |      | 伝統文化や祭り、歴史資源の保護継承事業 | 後期総合計画主要事業                  |
| 事務事業     |      | 伝統的建造物群保存地区保存事業     | H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位 |
| 事務事業     |      | 歴史的風致形成建造物修理事業      | H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位 |
| 事務事業     |      | 国指定史跡真壁城跡保存整備事業     | H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位 |
| 事務事業     |      | 国指定史跡管理委託事業         | H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位 |

|      |     |     |           |     |      |
|------|-----|-----|-----------|-----|------|
| 施策番号 | 305 | 施策名 | 文化財の保存・活用 | 主管課 | 文化財課 |
|------|-----|-----|-----------|-----|------|

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

|       |  |  |   |
|-------|--|--|---|
| 実績比較  | <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した  | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した | <input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
|       | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した   | <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した      |   |
| 背景・要因 | <p>・文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合<br/>19年度 89.4% 20年度 90.7% 21年度 90.3% 22年度 90.2% 23年度 89.9% 19年～23年は横ばいである。</p> <p>・地域の伝統行事や文化活動に親しんでいる市民の割合<br/>19年度 2.1% 20年度 1.6% 21年度 1.6%であった。</p> <p>・22年から、市民アンケートの設問を変更し、地域の伝統行事や文化財に親しみを感している市民の割合は、22年58.3%、23年55.5%であった。これは、平成22年6月に国の重要伝統的建造物群保存地区に真壁地区が選定されたことによるものと思われる。</p> <p>さらに、平成22年度まで親しみを感しない割合が約60%であったが、平成23年度では約48%の減少があり親しみを感しない割合が約12%となった。</p> <p>・文化財等の重要性についての認識、実際に伝統行事等に参加する市民の割合のいずれも殆ど増減がなく、年次を重ねることにより傾向を判断すべきものとする。</p> |  |   |

1)-②成果目標の達成状況

|       |  |  |  |
|-------|--|--|--|
| 実績比較  | <input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った   | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った                | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った  |
|       | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった   | <input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った | <input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った |
| 背景・要因 | <p>・①地域の伝統行事や文化活動に親しんでいる市民の割合は、23年度目標値60.0%に対し55.5%と4.5ポイント下回った。</p> <p>・②文化財等を大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合は、23年度目標値90.0%に対し89.9%ではほぼ横ばいとなっている。</p> <p>東日本大震災により復旧不可能となった登録文化財の指定解除が発生した。</p> |  |  |

2) 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

|       |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 実績比較  | <input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である   | <input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である | <input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である |
|       | <input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である   | <input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である      |   |
| 背景・要因 | <p>・登録文化財数の102棟は、全国屈指の登録数であり、大変高い水準を維持している。その要因は、伝建地区となった町並み保存の活動が住民の意識を高いレベルで支えているものと考えられる。</p> <p>県内の国登録文化財件数 206件 うち桜川市 102件 県内登録文化財の約半数が桜川市内と、他に比して圧倒的に高い。これは、施策として登録文化財制度に積極的に取り組んだ成果である。</p> <p>茨城県内の指定文化財件数 3130件 うち桜川市 124件 (44市町村中第7位)<br/>ただし国指定文化財数は 116件 うち桜川市 7件 (44市町村中第5位)<br/>県指定文化財数は 683件 うち桜川市 49件 (44市町村中第2位)<br/>桜川市域は指定文化財が多く、かつ、レベルの高い文化財が多いためである。</p> |   |   |

3) 住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

|       |  |  |   |
|-------|--|--|---|
| 実績比較  | <input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である   | <input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である | <input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である |
|       | <input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である  | <input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である                 |   |
| 背景・特徴 | <p>・文化財の重要性への認識は90%以上と高い水準にありながら、実際に伝統行事や文化活動への参加率は低い状態にある。伝統行事や文化活動への参加の時間的、経済的なハードルは決して高くないため、文化財の保護活用と伝統行事・文化活動との同義性、関連性について理解が十分でないものと言える。文化財が社寺等を中心とする一部の特殊な物件であり、身近な地域の伝統行事や文化活動とは別個のものとして認識されている可能性がある。</p> <p>ただし、重伝建造物については、平成22年6月に国の重要伝統的建造物群保存地区の国選定を受け、歴史的街並みとして、各種方面に注目され、知名度も上昇している。</p> <p>・市民アンケートから、この施策の優先度・満足度は、優先度は平均より低いが、満足度は平均よりかなり高い位置にあり、現状維持項目となっている。</p> |  |   |

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

|             |   |
|-------------|---|
| 前年度の取組状況と課題 | <p>23年度では、対象の「指定文化財」「市民」を、「文化財を守り後世に残す」ことについて重点的に取り組んだ。</p> <p>貢献した事務事業は「伝統的建造物群保存地区保存事業」、「歴史的風致形成建造物修理事業」、「指定文化財建造物保存修理事業(小山寺仁王門解体修理)」、「国指定史跡真壁城跡保存整備事業」、「出土遺物保存処理委託事業」、「国指定史跡管理委託事業」であった。</p> <p>・「伝統的建造物群保存地区保存事業」については、甚大な被害を被った東日本大震災の災害復旧事業として伝統的建造物の修理補助を行った。</p> <p>・「国指定史跡真壁城跡保存整備事業」については、外周輪の保存整備工事を行った。</p> <p>・「歴史的風致形成建造物修理事業」については、歴史的風致形成建造物の追加を行い、修理補助を行った。</p> <p>・「指定文化財建造物保存修理事業(小山寺仁王門解体修理)」については、小山寺仁王門の復原修理として、解体および復原設計にかかる修理補助を行った。</p> <p>・「出土遺物保存処理委託事業」については、真壁伝承館展示製作物として、真壁陣屋跡土層断面剥き取りパネル製作と現場設置を行った。</p> <p>・「国指定史跡管理委託事業」については、真壁城跡及び土原野原瓦窯跡の除草作業を行った。</p> <p>・その他の事務事業では・・・</p> <p>・「伝統的建造物群保存地区保存審議会運営事業」については、3回の審議会を開催し、保存計画の変更や、災害復旧にかかる補助率等の変更、旧真壁郵便局の修理内容、一般建造物の現状変更の審査を行った。</p> <p>・「文化財保護審議会運営事業」については、指定文化財を安全な状態に保つため、文化財の被災状況や対応方針などの重要事項について審議した。</p> <p>・「埋蔵文化財試掘・発掘調査事業」については、開発予定地内に埋蔵文化財埋蔵地がある場合や、開発行為に先立って埋蔵文化財の試掘・発掘調査を行う事業であるが、平成23年度は、試掘・発掘調査にいたった経過は無かった。</p> <p>・「指定文化財防災設備保守点検助成事業」については、県補助50%・市補助25%・地元負担25%による助成事業であり、小山寺三重塔の保守点検を行った。</p> <p>・「桜川市文化財整備委員会運営事業」については、文化財整備に関する市の方針を決定し、今後の市民の文化財に親しむ環境を整えることを目的としているが、平成23年度事業については特に無かった。</p> <p>その他の事務事業では、文化財防火デー訓練を行い、文化財が火災等から消失しないよう防災の点検・広報活動や訓練を毎年実施している。</p> |
|-------------|---|

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

| 区分   | 今後の課題  | 次年度の方針(案)   |
|------|--|---|
| 施策全体 | <p>・平成23年3月の東日本大震災により、市内でも多くの建物被害があったが、特に重要伝統的建造物群保存地区である真壁地区では、歴史的建造物が多いことから被害が深刻であり、所有者の高齢化問題や多額の費用を要することから、復旧には年月が必要となる。</p> <p>・特定の文化財については知られているが、その他の文化財についても状況を把握し市民が共有できるようにする必要がある。</p> | <p>・市内の貴重な文化財や史跡などの歴史資産については、修理や維持のための助成を行うとともに、公開のための整備、保全を行って保護・保存に努めます。</p> <p>・市内小中学校等との連携による郷土学習への協力や、交流人口拡大や文化財を核とした人々のつながりを増進します。</p> <p>また、観光見学者への利便性を図るため、案内板の設置やパンフレットの充実を行い、誰にでも分かりやすい情報や施設の提供を行い、文化財を積極的に活用します。</p>   |
| 基本事業 | ①文化財の保存  | <p>平成23年3月11日震災により、真壁地区の登録文化財や指定文化財が甚大な被害を受け、それらに対する補助について明確な基準を示し、主要事業である保存地区整備事業の重要建造物件数の更なる拡大を図る行政としては、早急な復旧事業を目指し取り組む必要がある。</p> <p>・伝統工芸や伝統芸能、伝統文化が伝承されているが、少子高齢化や人口減少、核家族化などに伴う地域コミュニティの希薄化により、保護・保存・伝承が難しくなっており、その対策が課題となっている。</p>                                |
|      | ②文化財の活用  | <p>・他地域に誇れる魅力的な歴史資産が豊富であることから、これらの保護・保存はもとより、郷土に対する誇りや愛着を醸成することともに、地域活性化のための貴重な資源として活用する必要がある。</p> <p>市内内外の人や文化の多様な交流によるまちの活性化を図るため、市内小中学校の児童、生徒の郷土学習への協力や、歴史・文化財に関する学習講座を開催します。</p> <p>また、観光見学者への利便性を図るため、案内板の設置やパンフレットの充実を行い、誰にでも分かりやすい情報や施設の提供を行い、文化財を積極的に活用します。</p> |